

[プロジェクト名]	[分野]
餃子で交流プロジェクト（第2回）	ボランティア 地域交流 国際交流
[代表者]	
教育学部・人間環境教育課程・4年 王 明江	
[参加者]	
<p>王 明江（教育学部・人間環境教育課程・4年） 原田 大志（教育学部・保健体育選修・4年） 平澤 良樹（理学部・数理科学科・4年） 高 蓮姫（人文学部・社会科学科・3年） 仁平 夏美（工学部・知能システム工学科・2年） 浅野 美穂（人文学部・1年） 石井 桃子（人文学部・1年） 黄 春波（工学部・機械工学科・1年） 坂入 友美（人文学部・1年） 谷 有紗（農学部・地域・1年） 中島 香奈（人文学部・人文コミュニケーション学科・1年） 春山 萌（人文学部・1年） 古川 瑠美（農学部・地域・1年） 鈴木 史恵（農学部・資源・1年）</p>	
[連携先]	
水戸市民及び水戸市国際交流センター	
[プロジェクトの実施計画概要]	
<p>去年「1万個餃子交流会」を開きました。来場者の皆さんに大好評でしたので、今年も水戸市国際交流センターの協力を得て「餃子で交流プロジェクト」を続行したいと思います。今回、「中国各民族料理の集まった餃子交流会」をテーマとします。内容は中国56民族（漢、満、朝鮮、ウイグル、モンゴル、回、サラ、タタル、タジク、欲固など）の中から6～10個民族の料理を取り上げて、食文化をはじめ、その地域の気候、経済、風俗などを紹介しようと思います。その後、試食をして、さらにその民族或いはその地域のことを味わってみたいと思います。</p> <p>その前に、プロジェクトの一環として、茨大の周りの公民館（堀原、新荘、常磐、渡里）と水戸市国際交流センターで計5回、20人ずつの餃子作り講習会を開き、日本人が大好きな餃子の本場の作り方を水戸市民に教えたいと思います。その中から餃子作りが上手な人10人くらいを募集し、餃子交流会前日と当日と一緒に準備してもらいたいと思います。申請者の王明江は中国の調理師免許を持っていますので、実行上の問題はありません。</p> <p>餃子作り講座、餃子交流会を通して、日中友好交流、国際交流を深めていこうと思います。さらに、水戸市民との交友関係を深め、地域の住民にもっと異文化を知ってみたいです。</p> <p>去年の「1万個餃子交流会」に続き、今年は「中国各民族料理の集まった餃子交流会」をテーマにし、来年は「旧正月の伝統がある国の餃子交流会」（主に中国、韓国、ベトナム、シンガポール）、再来年は「中国における各休日の代表料理のある餃子交流会」、さらにその次の年は「和、洋、中料理のある餃子交流会」をテーマにし、第1段階で5回に渡って、「餃子で交流プロジェクト」を継続的にやっていこうと思います。</p> <p>去年の経験からみると、調理用具が不足だったり、食材料の調達の不具合もあつたりしていたので、今年は前回の良かったことを生かし、足りないことを改善して、よりよくできるように頑張りたいと思いますので、是非、援助の方をお願いします。</p>	
[プロジェクトの成果報告]	
<p>私たちは12月16日（日）にプロジェクトを実施しました。今回のテーマは「中国・少数民族の文化」でした。準備の段階から、私たちはインターネットなどを通して、中国各民族のことを調べました。そして、それをパンフレットにまとめ、来場者に配りました。さらに、来場者に</p>	

より印象的、分かりやすいように56民族の民族衣装を着ている男女の絵を会場に貼り付けていました。私たちの紹介により、来場者は中国には56民族もあることをはじめて聞いたと言われました。そして、各民族の習慣や風俗が違うのみならず、言葉、文字もぜんぜん違うことに驚きました。その結果、来場者は「中国少数民族のことを知れてよかった」、「実際に行ってみたい」、「来年も開催してほしい」という意見がありました。

料理のほうでは、高山族、チベット族の方と連絡がとれませんでしたので、7民族（朝鮮族、回族、満族、モンゴル族、ダイ族、ウイグル族、漢族）の中から17品の料理を出しました。多数の来場者は「料理が良かった」と満足していました。17品の中に美味しかったベスト3は満族のミルクパン、朝鮮族の冷麺、トックポーキでした。実際に作ってみたいベスト3は冷麺、トックポーキ、ミルクパンでした。

プロジェクトの一環として、茨大の周りの堀原、常盤、渡里公民館で20人ずつ「手作り餃子講習会」1回、「手作り肉まん」2回を開きました。餃子交流会の来場者から寄せられた意見により、2月中旬から朝鮮族の手作りトックポーキ講習会、満族の手作りミルクパン講習会を企画中です。

今回、茨城県日中友好協会の森富士夫会長をはじめ、茨城県日中友好協会の方々も出席しました。乾杯の言葉は森会長からもらいました。森会長は日中民間交流の未来への展望を熱く語りました。餃子交流会を通して、日中友好交流、国際交流を深めていき、さらに、水戸市民との交友関係を深め、地域の住民がもっと異文化を知ってもらいたいという当初の目的を達成できました。一方、「実際に行ってみたい、少数民族の人と話してみたい」、「少数民族をもっと詳しく知りたい」、「展示物がもう少し充実しているとよい」などの注文も寄せられました。

私たちは「少数民族のこと、メニューを説明できて良かった」のほかには「もう少し交流する時間がほしかった」、「ゲームが中途半端だった」、「時期が悪かった」、「少数民族の簡単な言葉を習い、来場者に教えるのは良い」という反省をしました。今回、私たちは来場者とよく交流したので、12時—13時の1時間があったという間に過ぎてしまいました。2通りのゲームを準備しましたが、1通りしかできませんでした。来場者は時間がなったら、予定があるかもしれないという考慮を含め、国際交流センターの担当者と相談した上で延長しませんでした。

今回、学務の方は消耗品や食材の購入を迅速してもらったので、よりスムーズに企画通りに実行できました。来年の餃子交流会は来場者の要望や寄せられた意見など参考しながらよりよい交流会を開催できるように企画したいです。